

夕張市美術館の今後の在り方について

(答 申)

夕張市美術館の今後の在り方検討委員会

平成 24 年 7 月 31 日

答 申

はじめに

1979年に開館した夕張市美術館は、道内市町村立美術館としては2番目に古い歴史をもつものである。また夕張の美術界の歴史はさらに古く、美術協会が結成されたのは昭和5年、また淳風書道会（支部）が結成されたのは昭和9年のことである。

戦時中は一時影をひそめた文化活動であるが、戦後は市内各地域で絵画や書、写真などの愛好者の活動が再開され、文化芸術を愛する炭鉱労働者や教職員らによって夕張の美術界は支えられてきたといえる。

夕張市美術館の収蔵作品の多くは、そうした会発足当時からの人たち、また本市に縁のある作家の手によるものが大半を占めている。

さらに、その機能においても、学校教育との連携や市民の創作活動の支援など多くの面で市民生活に潤いを与えてきた。

言うなれば、この度の積雪による屋根崩落は、建物としての“美術館”の崩壊ということだけではなく、これまで続いてきた夕張の文化芸術の歴史をも寸断しかねないものであった。

しかし幸いにも、収蔵作品のほとんどは無事が確認された。そしてこれを機に市民は、文化芸術そして美術館について、改めてその重要性を考える機会を得ることとなった。

我々は平成24年5月29日、夕張市教育委員会から「夕張市美術館の今後の在り方について」の諮問を受け検討委員会を設置、これまで5回の議論を重ねてきた。

今後の美術館の在り方、即ち、本市の文化芸術活動の目指すべき方向性を明らかにし、それに向けて進む第一歩として「早急に進めるべき課題」、「中・長期的ではあるが明確な展望」を念頭に、現実性をもった答申となるよう努めた。

検討を進めるにあたっては、諮問にある「検討の3つの視点」を中心に次のとおり各委員の意見をとりまとめ、答申とするところである。

①夕張市における美術館再建について

現在、夕張市の置かれている状況や時勢をみても、新たな美術館施設の建設は極めて難しいことであろう。収蔵作品を適切に管理し、常設展示できるといったこれまでの美術館と同等の機能を備えた施設の再建は現状望めないものとする。

しかしながら、収蔵作品の多くは本市にあってこそ大きな価値を持つものであり、本市の歴史を語る貴重な財産である。これまで美術館が守ってきた先人たちの作品を散逸させ

ることは、あってはならないことであり、未来へ歴史をつなぐためにも、収蔵作品を多くの市民に公開する機能は残すべきと考える。

②夕張市美術館収蔵作品の管理と活用について

施設がなくなった今、まず考えなければならないのは収蔵作品の管理である。現在は一定程度空調設備の整った市内公共施設において安全に保管されている状況である。環境的にも作品移動の利便性をみても、当面は同所での保管が最良であると考え、今後、市庁舎内等に空きスペースができるなど検討の余地ができた際には、保管場所の移設も考えられる。

次に作品の活用についてであるが、作品は人の目に触れてこそ生かされるものであるため、ぜひ、多くの人々の目に触れる機会をつくるべきと考える。

市内には廃校などの使用されていない施設は多くあるが、人の流れやセキュリティーの問題を考慮すると、常に人が交流し空気が動いている場所で展示可能な空間を探すことが重要である。

今回、市内の公共施設数か所を視察し、次の施設においては常設的な展示が可能ではないかとの結論に至った。

ゆうばり小学校（図書室・ロビー等）

夕張中学校（ロビー・廊下等）

清水沢地区公民館（和室・階段・2階ロビー等）

文化スポーツセンター（ロビー・階段等）

ふるさとギャラリーあずましい（市庁舎内2階展示スペース）

更に、長期的展望の上にとって考えるならば、いずれかの施設が中心的な役割を担うことが必要になってくると思われるが、ふるさとギャラリー「あずましい」の展示スペースの拡充や、保管・管理できるスペースの確保など、さらに充実したギャラリーへ転換できれば、ここが中心施設として充分機能するのではないかと考える。

年に1回程度、定期的に展示替えをしながら、各施設に10点ずつでも展示ができれば、収蔵作品の約1割にあたる50点程度の作品が毎年公開できる。その際には展示施設や作品を紹介するマップ等が作成できればより満足度が高いものになるだろう。

いずれの施設も壁の強度によっては釣り金具の設置等に若干の設備投資も必要になるが、ライティングなどは当面自然光のみで対応し、今後計画的に展示環境を整えていくことが望まれる。

また、公共施設以外でも、セキュリティーや展示環境の問題がクリアできれば、数点ずつでも展示できるような空間を持つ民間施設での展示も考えられるのではないかと考える。

もう一つの活用方法として、市外の美術館等への貸出がある。他の美術館で展示されることにより、そこで夕張の作品を目にした方が、それ以外の作品を鑑賞するため夕張へ足を運ぶことにつながる可能性もあるのではないかと考える。

また、作品の保管・活用に関しては、教育委員会が現在の体制ですべてを取り仕切ることが困難なため、ボランティアの協力を得ることはもちろんであるが、やはり中心となって進めていける知識を持った専門職員等の配置についても検討が必要であると考えている。

③夕張市の芸術文化振興のための発表・展示機会の提供について

市民の創造的・意欲的な生活にとって文化芸術の持つ役割は極めて大きく、その振興は地域の発展にも大きな力となるものであるが、市民は、市内では数少ない創作活動の発表の場であった美術館を失ったのである。

現在、展覧会等のできる大きな空間を持つ施設は清水沢地区公民館に限られているが、それも昭和49年に建設された築38年の施設である。展示用パネルも古く、枚数も十分ではないことから、今後、主としてこの施設が展覧会場になるであろうことを考慮し、これについても計画的に修繕、設備整備をしていくことが必要と思われる。

平成19年度から、社会教育施設の会場使用料は1.5倍となり、社会教育関係団体の活動支援として設定されていた割引率も4割から2割に改定されているところである。

利用者は直営時代の美術館市民ギャラリーに比べ約18倍、指定管理時の同施設に比べても約4倍の負担を強いられ、このままでは発表機会を継続的に持ち続けることが極めて困難となり、それにより創作活動が衰退していくことも懸念される。

展覧会等と会議・会合等では使用の期間も目的も全く異なるものであるため、貸館の際の料金設定は同一ではなく、展覧会独自の設定について早急な検討を強く願うところである。

まとめに

これまでの美術館の在り方から大きく方向転換することで、市内に今ある施設の空間を有効活用し、これまで以上に作品が市民の目に触れる機会を持つことができるような未来を思い描くことができた。

この答申が、美術作品とともに歩む夕張の新たな歴史の第一歩になることに期待したい。美術館は芸術作品とのふれあいの場であるとともに、人々の交流の場である。その機能が市内のあちらこちらで発揮され、作品が永く市民に愛されるものとなり、またここから、優れた文化と芸術の担い手が生まれることを願うものである。

会議経過

日 程	会 議 名	会 場	備考
平成 24 年 5 月 29 日（火）	第 1 回 夕張市美術館の 今後の在り方検討委員会	市庁舎 4 階会議室	公開
6 月 15 日（金）	第 2 回 “	市内公共施設	
6 月 27 日（水）	第 3 回 “	ゆうばり文化 スポーツセンター	
7 月 17 日（火）	第 4 回 “	市庁舎 4 階会議室	
7 月 31 日（火）	第 5 回 “	市庁舎 4 階会議室	公開

夕張市美術館の今後の在り方検討委員会

	氏 名	所 属
委員長	小 網 敏 男	夕張市社会教育委員の会
副委員長	上 木 和 正	学識経験者/元美術館長
委員	安 藤 文 雄	夕張写真サークル
委員	氏 家 和 子	夕張書道連盟
委員	澤 井 俊 和	ゆうばり再生市民会議
委員	高 橋 一 男	夕張文化協会
委員	比 志 恵 司	夕張美術協会

夕張市教育委員会事務局

小 林 信 男	教育長
秋 葉 政 博	教育課長
古 村 賢 一	社会教育担当課長
高 橋 賢 一	社会教育係長
木 村 愛	社会教育係主任